

中小企業の取引金融機関数

——中部・北陸地区における実証分析——

東洋大学大学院 石川 英文

1. 目的

本稿の目的は、取引金融機関数を中心とした実証分析を行うことにより、金融機関と中小企業の貸出関係について、ファクトファインディングを行うことである。

2. 分析方法

『帝国データバンク会社年鑑』1995年版、2001年版、2009年版を用いて、中部・北陸7県について、県ごとに中小企業200社をサンプリングし、取引金融機関数の決定要因について実証分析を行った。

3. 分析結果

中部・北陸圏においては、複数行取引が主体であり、かつ、1995年から2009年にかけて取引金融機関数は増加傾向にあることが判明した。取引金融機関数の決定要因については、県や年度によってその特徴は異なる。売上高と取引金融機関数はいずれの県や年度でも、正の相関関係にある。一方で、地域でのメイン占有率が高い金融機関の強さによって県ごとの競争環境に差が生じている可能性があることが判明した。

キーワード：中小企業 複数行取引 取引金融機関数